「罪赦される福音」
使徒言行録 13 章 26－41 節

今日の箇所の 26 節で再びパウロは御言葉を聞く人々に呼びかけ、注意を促しながら語り出します。パウロはここで、「私たちにこの救いの言葉は送られた」と強調しています。私たちのために、神さまの最大の備えとして約束のメシアであるイエス・キリストが世に来られたというのです。ところが、エルサレムに住む人々や指導者たちは、この方が救い主であることを認めませんでした。パウロは言います。この人々は、安息日ごとに読まれる預言者の声を聞きながらも、それを理解せず、無知のゆえに何の罪も見いだせないイエスさまをピラトの手に渡して、十字架につけて殺してしまったと。

一見すると、これで神さまの計画は失敗してしまったかのように見えます。しかし、パウロは、そこで不思議なことを言います。「こうして、イエスについて書かれていることがすべて実現した」（29）と。このことは、イエスさまご自身が主の晩餐の席において言われたことでもありました。イエスさまは、「言っておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれていることは、わたしの身に必ず実現する。わたしにかかわることは実現するからである。」（ルカ 22：37）と言われ、イザヤ書の預言を通してご自分に起こることを明らかにされました。

このような人々の反逆は、神さまからすれば予想外の出来事ではありませんでした。けれども同時に、人々が反逆しなければ神さまの約束が実現できなかったということでもありません。むしろ、このような民の無理解、そして神さまが送ってくださった救い主を十字架につけてしまうという恐ろしい罪でさえ、神さまのご計画の中で導いてくださり、救いの御業を実現してくださったということなのです。

それゆえに 30 節です。「しかし、神はイエスを死者の中から復活させてくださったのです」。この神の救いの出来事は、復活によって確かなものであることが保証されています。神の義の前に滅びるしかない、神に呪われる死を負うべきであった私たちの罪を、イエスさまがその身に負って裁かれてくださり、その復活によって完全な赦しを与えてくださるからです。それゆえ使徒たちは、復活の証人としてこの福音を伝え続けてきたのです。ですから、パウロも語るのです。「わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。つまり、神はイエスを復活させて、わたしたち子孫のためにその約束を果たしてくださったのです」（32-33）と。

パウロは、この福音を聞く人たちに向かって最後にこう呼びかけます。「だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、信じる者は皆、この方によって義とされるのです」（38-39）と。

義とされるために本当に必要なのは、信じることです。主イエス・キリストが、この私のために十字架にかかって死んでくださり、罪の赦しの恵みを与えてくださった。そのイエス・キリストを復活させられた父なる神さまが、この私たちをも、キリストと共に新しい命に生かそうとしてくださっている、このことを信じること。そして何よりも、この私は、自分の力では救いを勝ち取ることのできない罪人であり、自らの行いによっては神の前に義とされえない罪赦される必要のある存在であるということ、そのことを認めることです。そのことによって、私たちは、神さまの前に義とされるのです。罪を赦され、新しい命に生かされるのです。

私たちは、主イエス・キリストによって罪を赦され、その壮大な神さまの救いの歴史の中に入れられた一人として、この罪赦される福音を受け継ぐ者でありたいと、またそのような教会でありたいと願います。